

## 「知りたい！ サクラ・さくら・桜」 第81回研修会の報告

小島紀彦

日時：2019年4月11日（木）午前9時～午後2時30分

場所：我孫子市近隣センター「こもれび」及び手賀沼湖畔

参加者：壱岐、岩根、勝股、木村、草野、小島、渋谷、鈴木俊、鈴木と、高野、田中、長谷川、服部、林、日野原、平田、三嶋、山口、吉田、米澤、龍門 計21名

9時に東我孫子駅近くの“こもれび”に集合し、1時間の座学を予定。開始が会議室の準備などに手間どり20分ほど遅れたが、パソコン・プロジェクターで映写して、桜の講座をスタートした。

1.サクラの説明、2.形態、3.自然種、4.染井吉野、5.里桜という順番に進める。

自然種はヤマザクラ、カスミザクラ、オオヤマザクラ、オオシマザクラ、エドヒガン、チョウジザクラ、マメザクラ、タカネザクラ、ミヤマザクラ、カンヒザクラ、クマノザクラの11種があると説明。各々の種類毎にスライドに映し、その特徴を説明した。

エドヒガンについては、材が硬く長寿な樹である事や日本三大桜になっている根尾谷の薄墨桜、山高の神代桜、三春の滝桜の全てがこの種である話とその姿を写真で見て貰う。クマノザクラは昨年自然種として103年ぶりに認定された奈良、和歌山、三重の限定種。染井吉野については誕生・調査・経歴・特徴に分けて説明した。最初は「吉野桜」として売り出され、明治の中ごろに染井吉野の名前がつき、学名登録と共に全国に広まった。ある時エドヒガンとオオシマザクラが交雑して絶世の美人ができ、この良さを挿し木で増やした。里桜はオオシマザクラが絡んだ桜の品種である、早咲きから遅咲きまでスライドで見て貰った。

座学の途中で塩漬けにしたサクラの花を湯に入れた「桜湯」をいただき、関さんの森で採取しておいた桜葉で作った自家製の「桜餅」を賞味しながら、和やかな雰囲気で、楽しみのある場になった。時間に追われたが10時半に座学を終えた。

その後は、こもれびの玄関に集合し、ここから観察会が始まる。最初は民家の庭にあった八重紅枝垂に紅色の花が咲いているのを観る。手賀沼湖畔に出てから最初に終わりかけのエドヒガンを見た。花がわずかに残っており、萼筒の壺形と毛のビッシリついているのを確認した。その先にヤマザクラが葉と一緒に花を咲かせており、ヤマザクラの説明。大きな幹の染井吉野が一杯に花をつけており、萼片や萼筒の形、毛の有無の違いの話をした。今日は主に八重桜を中心に花の咲いている所を見て貰う予定が、湖畔の八重咲きは蕾の状態で花がまだ見られなかった。変わりに染井吉野は満開を少し過ぎていたが充分に見応えがあり、染井吉野の観察会のようだった。染井吉野も大きな樹は花が多く流石に価値が大きい。途中の休憩場所で鈴木さんに桜のクイズをやって頂き、お花見団子の色の意味から、一人一人に桜のついた名前を次々に言ってもらい、言えない人は「ぼっと桜を見ているんじゃないよ」とチコちゃん流のお叱りを受けたり、楽しみながら学ぶという味わい深さを感じた。水の館近くで江戸・一葉・御車返し・鶯の尾の花が咲いていて、これらが見られホットした。

水の館に到着して、最初の解散にする。時間に余裕のある方は昼食後手賀沼公園から我孫子駅まで歩いて2時半頃に最終の解散にした。座学と観察会とで長い時間だったが、参加の皆さんのご協力で、予定通りに研修会が終えられてよかったです。一日が楽しく過ごせました。参加者の皆さんに感謝と共にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

オオシマザクラは白くて大きな花が咲き、旗弁も観察できる

